

【問い合わせ】 町人権啓発福祉センター（人権推進課 人権推進係）
☎096(293)7920

これからも、人との出会い、 つながりを一番大事にしたい！

高木裕紀さん（大津町立護川小学校教諭）
今回は、護川小学校6年担任の高木裕紀さんに話を聞きました。



「先生の経歴を教えてください。」
私は、今年で教諭歴37年目、護川小学校は通算8年目を迎えますが、大津北小学校（旧矢護川小学校）時代も合わせると大津町内勤務は20年以上になります。教職生活の半分以上は、この大津町にお世話になっていてのことになりますね。当時の教え子が親になり、幸運にもその子を受け持つ、2世代担任も今では数が増えました。教え子たちとの出会い、つながりを一番大事にしたい私にとって、本当に貴重でありたいことです。

「これまでの教師生活を振り返り、今の心境を聞かせてください。」
初任校の矢護川小学校時代の経験が私の原点です！

当時、保護者が参加する美化作業で、重機などいろいろな機械を使って大きな藤棚を見事に作られたんですよ。まるで職人技のように。「なんで普通のおっちゃんたちがこんなことができるの？不思議！すごい」。市内の街中で、勤め人の家庭で育った私にとって、とてもカルチャーショックでした。このとき、お金では決して買えない、人の豊かさや地域の温かさを知り感銘を受けました。

また、私は大学時代理科の甲殻類

ようになりました。

子どもたちには自分のままで、自分の意志で、途中「差別やいじめ」に出会ってもそれに負けずに、最後までまっすぐ自分の道を歩んでほしい。「あなたはあなたのままでいいよ！私はそんな社会をずっと願っています。」

たまにふざけている子を、強い口調で叱らせる高木先生の将来の夢は、「元気な年寄り！」。取材前、先生の授業を見学した私は、明るく元気に語りかける姿を懐かしく感じた。サワガニ取りと一緒に楽しみ、ふざけて叱られた当時の記憶が、34年ぶりによみがえってきた。教え子一人として私は、ずっとこの「元気な年寄り」の夢を支え、つながり合う熱心な思いに対し、返していきたいと思う。

インタビュー]



「最後に、子どもたちへメッセージをお願いします。」
私は、残すところ来年度いっぱいひと区切り（退職）ですが、最後まで担任として子どもたちと一緒に居れるのがとってもありがたいです。「同和」教育との出会いから、子どもたちのことをとっても素敵に思える

が専攻だったので、放課後子どもたちを近くの矢護川に連れて行き、よくサワガニ取りなど水遊びをしていました。雄大な鞍岳山を望み、自然に恵まれたこの地で、今で言うフィールドワークにどっぷりハマってましたね。この経験が今の自分にいかされ、つながっています。

フィールドワークから「人権教育」を学ぶ！

以前、この護川小の低学年を担任した時、よく子どもたちと校外へ出ては、昔の道や水の歴史はどうだった？など「地域探検」をやっていました。私はじいちゃんばあちゃんも好きなので、教室に招いて、子どもたちに地元にもつわる昔話をたくさんしてもらいながら、交流を行いました。なぜか、ふだん騒がしい子どもたちが、この時だけまじめに聴いてるんですよね（笑）。

大津北小の合併前の頃に、旧矢護川小と旧平川小で、水を共通のテーマにしたフィールドワークを行いました。すると、当時、命を守り育む水をめぐる出来事を知った子どもたちは、大人からの聞き取りなどを行いながら熱心に学習し、どこにも、くらしを良くする取り組みがあると知りました。それを学校間で発表しあいました。子どもたちが学習することで、地域や人をつないでい

く……こんな素敵なことはない、子どもたちの力はすごいと思いました。

「現在担任している護川小6年生の子どもたちに望むことはありますか？差別やいじめに直面した時、すく、何で？と聞き返す子に育ってほしい！」

学校行事の護川フェスタでは、6年生全員で長崎の被爆者の体験をもとにして劇を演じました。上手下手でなく、一人ひとりの大事だという気持ちを通わせ、精一杯、役をやり遂げたという達成感を味わっていたみんなに私は感動しました。

この春から中学校へ進学しますが、人権意識をしっかり持って、差別やいじめに負けない子どもになってほしいです。また、差別を受けた側のきつさも、差別した側の背景も互いにわかり合い、つながり合ってほしいと思っています。差別やいじめに直面しても、下を向かず堂々と聞き返すことのできる、そして、本当に信じられるなかまづくりをして、この護川小を築立って行ってほしいです。

「同和」教育について、どう考えていますか？

私は、県の人権同和教育課にいた6年で、「同和」問題について、より

人権ニュース

「人権を考える女と男のつどい」を開催

昨年12月7日、「人権を考える女と男のつどい」を町文化ホールで開催しました。これは、町民の皆さんに人権や男女共同参画を身近な問題として考えてもらうために開催しているもので、当日は町内外からたくさんの方が参加しました。

前半は、ほりだし劇団による人権生活劇「夫婦は二人三脚！」。ほりだし劇団は、日常生活の中にある矛盾や不合理といった数々の問題を、毎回笑いであふれた芝居を通して提起しています。



後半は、NPO法人「いのちをつなぐ会」代表理事で、元小学校校長である高濱伸一さんが、「子どもたちのいのちのありがと」と題して人権講演を行いました。高濱さんは平成16年に大学生の長男を突然の交通事故で亡くし、さらに数年後、食道がんの摘出手術を受けています。さまざま「死」に直面してきた高濱さんは、自身の経験や思いを通して、命の大切さや命はつながっているのだということに参加者に語りかけました。

